

沖縄県ドクターバンクからのお知らせ

常勤・非常勤での勤務先を探している、ベテランの技を活かしスポット勤務で働きたいとお考えの先生方、または産業医として勤務できる事業所をお探しの皆様！沖縄県ドクターバンクに登録してみませんか？当バンクでは多くの求人情報の中から、皆様のご希望に合う医療機関をご紹介します。

☆下記の登録票に必要事項をご記入の上、沖縄県医師会事務局 業務1課まで、FAXにてお申し込みください。

FAX 番号:098-888-0089

沖縄県ドクターバンク登録票 (医師用)

*項目は必須

受付登録日： 年 月 日 受付番号：

ふりがな *氏名	-----		*生年月日	(西暦) 年 月 日生	
*住所	〒 -				
*連絡先	電話(自宅または携帯)：				
	E-mail：				
*医籍登録日	年 月 日登録	保険医登録番号	医 号		
*医籍番号	第 号	*専門診療科			
資格	専門医資格	その他の資格			
*現在の状況	①就業中 ②休職中(産休・育休・病休) ③離職中 ④その他：				
現在の勤務先					
希望条件	就業形態	①常勤 ②非常勤(頻度 回/月程度) ③その他：			
	希望診療科				
	施設種別	①病院 ②診療所 ③その他：			
	希望地域	第1希望： <input type="checkbox"/> 那覇 <input type="checkbox"/> 南部 <input type="checkbox"/> 中部 <input type="checkbox"/> 北部 <input type="checkbox"/> 離島			
		第2希望： <input type="checkbox"/> 那覇 <input type="checkbox"/> 南部 <input type="checkbox"/> 中部 <input type="checkbox"/> 北部 <input type="checkbox"/> 離島			
	勤務希望時期	①今すぐ ②平成 年 月頃から ③未定			
	勤務時間	勤務可能な曜日： 月・火・水・木・金・土・日			
		勤務可能な時間帯： 時 分 ~ 時 分			
	当直勤務	①できる ②できない			
	希望業務内容	①病棟 ②外来 ③健診 ④パート ⑤臨時 ⑥産業医			
	給与	常勤務の場合： 月給： 以上			
		非常勤の場合： 日給： 以上 月給： 以上			
		臨時の場合： 時給： 以上			
保育所	①必要 ②必要なし				
再就業のための再研修	①必要 ②必要なし				
その他希望					

*氏名、住所等の個人が特定される情報につきましては、個人情報保護関連法令に則り開示・公表また無断流用は一切いたしません。

《提出・問合せ先》
〒901-1105 南風原町字新川218-9
沖縄県医師会事務局
業務1課 ドクターバンク担当
TEL.098-888-0087 / FAX.098-888-0089



これまでの歩みと現代
医学についての考察

佐久本 卓哉

今年の3月で91歳になりました。この年になっても医学への興味は尽きず、この会報に寄稿出来る事に感謝したいと思います。

ではこれまでの私の歩みを振り返ってみたいと思います。

太平洋戦争末期、牛島中将の護衛隊に居た兄に「父を国頭に連れて行って欲しい」と頼まれました。その通りに父と共に国頭へ向かい移動していると本島中部は米軍によって封鎖され南部へは戻れなくなり、南部の激戦で同級生は全員死亡しました。

後に兄が我々二人を戦闘から遠ざける為の機転だった事を知ります。

この影響で日本医大へ合格が決まっていたものの進学出来ず琉球大学の前身である文教学校の外語部に入学し、卒業後は具志川の天願QM(米軍)で4年間働きました。

そこで軍の運転免許を取得した後、南部の知念にあった軍政府の文教局に通訳として働く事となり、上司であるチーニー女史をジープで視察に連れて行く通訳兼ドライバーの仕事をする事になりました。終戦直後の那覇高校や首里高校を視察に行った事を覚えています。

この仕事は実は護衛の役割も兼ねていたので拳銃を携帯させられていました。

当時米軍は占領軍だったので危険な目に合う事を想定しての事だったのですが、結局発砲する事なく無事に終える事が出来たのは幸いでした。

その後アメリカのガリオア資金による留学生として(当時沖縄は日本に復帰していないので)岡山大学医学部に合格、入学し卒業後は岡山大学病院の陣内教授率いる外科に入局しました。

1年後、沖縄に医師が不足しているという事で沖縄県から電報で沖縄に戻る様に促され、本島北部の名護保健所に勤務する事になりました。

終戦後の保健所の主な仕事は結核の検診と治療でした。

また当時の保健所は米軍と密にやり取りをする事も多く、米軍の軍医とも親しく付き合う様になり、保健所の職員120名ほどを連れて米軍施設を見学に行った事もありました。

その後那覇で開業し、2011年まで診療を続けました。

その間、沖縄県内科医会会長を10年ほど務め、全国の内科医会会長47名が沖縄で会合を行った際には私が進行役を務めさせて頂きました。

那覇市内の料亭で内科医会長の皆さんと設けた宴席は今でもいい思い出です。

以上、私のこれまでの歩みを振り返って書いてみました。

さて、最近の医学は技術の発達も素晴らしく目を見張るものが有りますが、検査方法もまた昔とはかなり変わって来ていると感じています。

膵臓癌には「超音波内視鏡」 脳、心筋梗塞に「LOX インデックス」、糖尿病に「サインポスト 遺伝子検査」、認知症に「MCI スクリーニング検査」という様にこれまでに無かった検査方法も次々と開発され、専門分野で無ければ理解するのも苦労します。

最近良く聞くキーワードは「サージ」「スパイク」でしょうか。血圧や血糖値がこれまでの

正常値に収まっても上昇するスピードや割合が高ければ高血圧や糖尿病のリスクが上がるという事で、スパイクによって脳梗塞や認知症のリスクが上がるという事もあるようです。つまりは上昇率が高ければそれ自体がリスクになり得るという事の様です。

検査値の上昇率を測定するという事は今までよりもモニターする回数や時間を増やす必要があるはずで、それだけ時間や手間、費用をかけるだけに見合った効果があるかどうかは検証すべきであると思います。

最近様々メディアで健康を取り上げる事が多くなった様に思います。テレビや週刊誌でも健康特集が組まれる事も多く、「〇〇を食べて健康に」とか「日本人には糖分や炭水化物は必要」「高齢者はLDLを100以下にする必要がある」等と多くの情報が溢れ、「情報が多過ぎてやる気が無くなる」という本末転倒な事も起こりそうです。

その他「米国では前立腺癌の指標にPSA値は用いない」とされていますが日本ではPSA値は前立腺癌の活動の指標とされています。本当に有効なら国によって指標が異なるのはおかしいと思うのですが。

また、「認知症の治療薬が認知症を悪化する」といった記事もあり、この様な事が続くと患者や家族が治療の方針を立て難く、治療をためらうといった悪影響も心配されます。

確かに認知症の治療効果というのは数値で現れたり目で見えるものではなく、患者の状態も日によって変動するので悪化した様に見える事もあるかもしれません。同じ様に治療の効果を実感しにくい薬剤はマスコミの材料にされ易い事もあるでしょう。

最近人間ドックも詳細な検査を行う様で「人間ドックに行っていれば全ての病気が早期発見出来る」というイメージを持つ患者さんも居る様です。

また週刊誌の話で恐縮ですが、「人間ドックで見逃される病気」という特集が注目を集めている様です。

マスコミに振り回されている様で正直うんざりもしますが、見過ごす訳にはいかない見出しがあると目を通したくなるから仕方ありません。

以上、最近の医学に関する考察を自分なりに書いてみました。

「医学が進歩し続ける限り医師は勉強を怠ってはならない」とこの年になって改めて実感しております。



随筆



雪国からの脱出 —北陸珍道中—

社会医療法人かりゆし会
ハートライフ病院
久場 良也

「俺来年73歳だけど、お祝はちょっとねー、そこで提案だけど来年の春、2月の末か、3月の初めに兄弟夫婦六人で旅行しないか？」と長兄（沖縄市で針灸院開業、剛柔流拳法館館長）夫婦から話があったのは、昨年のお盆の御送り（ウークイ）の夜でした。ワインを飲みながら、長兄夫婦とは行事の度に飲む機会があるが、次兄（神戸在住、麻酔科医）夫婦とは娘の結婚式で会って以来なので、「旅の空の下、旨い料理と温泉、三人で一献傾けるのも悪くないな」と思い直ぐに次兄にメールを送りました。その後、互いの都合で二転三転し、日程は2月4日（日）～6日（火）、「新大阪駅に集合し芦原温泉へ、天気と時間により東尋坊、三国港観光、翌日永平寺観光、昼食後長浜へ、長浜市内観光後ホテルへ、翌日近江八幡観光、お昼は近江牛を食べた後、各自で帰途へ」という計画となりました。出発の数日前から「日本海に寒波が近づいて北陸は大雪」の予報を見て、鳥取出身の妻は「雪と寒風の中で日本海の見るのは楽しくないよ」と不満顔でしたが、私は冬の「日本海の荒波、蟹と魚、熱燗、雪見の露天風呂」を思い描いて心待ちにしていました。

2月4日、福井の朝の天気予報は雪、夫婦共にダウンジャケット、滑り止めの強い靴、ホッカイロを準備して、「僕らは大雪に向かって旅するんだね」と旅情の期待と少し不安を覚えながら那覇空港に向かいました。空港ロビーで待ち合わせしていた長兄夫婦に会ってビックリ、長兄のこれから雪国に行くとは思えない服装と左足の踵が炎症で腫れて、靴が半分しか履けないとのこと。空手家は寒さに強いのかな？それ

にしても雪が無ければ歩くのは可能だと思われるが、雪道は危ないので、移動手段が必要だなと、飛行機への搭乗前から福井での予定に不安を感じました。新大阪駅で次兄夫婦に会うと、防寒着に毛糸の帽子、足は防水シューズ、レッグウォーマーと雪中行軍にも耐えられそうな服装にこれまたビックリ。

湖西線を北上する車窓は次第に雪景色となり、「見ているだけなら良いけど、寒そうだね」長兄妻の一言。私と長兄は駅弁と冷酒で鉄道旅の良い気分を味わいましたが、滋賀県を抜け福井県に入ると次第に吹雪いてきて雲行きが怪しくなりました。芦原温泉駅に着くと吹雪は益々強くなり、3時過ぎなのに薄暗く、ホワイトアウトで市内の町並みもハッキリしません。長兄の足のこともあり、女性陣が「早く温泉に入りたい」と叫んだため、旅館に直行となりました。

雪景色の中の露天風呂は、頭や顔は少し寒いのですが、体を気分よく温めてくれたので非常に満喫しましたが、女性陣は「露天は寒い」ので内湯だけで済ましたようでした。夕食前に「明日は今日以上に吹雪そうだ」との予報から雪深い山の永平寺は断念することになり、えちぜん鉄道に乗って福井駅、柴田勝家の北ノ庄城趾の見学に変更しました。その後、長浜での夕食をホテルの食事にするのか、長浜名物の真鴨の料理にするのかで長兄夫婦の間でもめそうでしたが、パンフレットから真鴨を使った鴨南蛮を売りとした蕎麦屋を見つけ、長兄妻の意見にまとも、女性陣はホッとした様子でした。その夜は日本海の幸と日本酒でいつもながら楽しい時間を過ごしました。

2月5日の朝も吹雪は続いていて、えちぜん鉄道はホームに人影も少なく、ドアが開く度に雪が舞い込んでは車内が寒くなり、車内でもダウンジャケットが離せませんでした。福井駅に着いてロッカーを探している時に、駅員が臨時のお知らせを書いていたので、覗いて見ると運休の発表でした。「現在既に列車が遅れており、昼から運休します。可能なら急いで列車に

乗った方が良いです」との事、駅員の助言に従い、北ノ庄城址見学を断念し、急いで長浜に向かうことにしました。駅のホームは寒く、ホッカイロ、ホットなお茶で温まりながら遅れた列車を待ち続けました。車内はギュウギュウ詰めで席に座れた時はホッと顔を見合わせる気分でした。減速運転のため「新幹線への接続が遅れる」との放送が度々あり、乗客の諦めの声が聞こえてきて、なんとなく長浜での観光の話は憚られました。

長浜駅に着いた時は「良かったね」と全員ホッとした顔でした。長浜は福井に比べると雪は少なかったのですが、寒さは予想以上でした。観光案内所に向かい、お蕎麦屋さんに向かいながら途中で観光する道順を尋ねました。盆梅展ではそれは見事な梅の盆栽の前で写真をパチリパチリ皆はしゃいでいましたが、その次の北山魯山人の篆刻にはただただ圧倒されました。お蕎麦を待つ間に鮎鮓と熱燗で温まり、鴨南蛮は合鴨とは違う真鴨の歯応えと噛むほどに出てくる旨味が舌鼓を打ち、その日初めて旅の楽しさを味わうことができました。その後、黒壁スクエアでガラス細工を買ってホテルに向かい、長浜でも露天風呂に入り温泉を満喫し、夕食でのワインで最後の夜を楽しく過ごしました。

2月6日は晴れて、伊吹山や周囲の山々の雪が眩しいくらいでした。近江八幡駅に降りた時、急に突風が吹いて長兄の帽子が飛んで線路に落

ちてしまいました。慌てて駅員に拾ってもらいホッと一安心でした。ぞろぞろと駅の案内所に向っていると「私達老人クラブみたいやね」と次兄妻が一言、みんな爆笑でした。近江神社参拝の後に、火曜日はほとんどの店が休みとのことで、一軒しか開いていない近江牛のお店に向かいました。「近江牛は味噌漬けにされ、薬として江戸時代から食べられていたことや松坂牛や他のブランド牛等と比べても間違いが少ない」など兄2人は近江牛の良さを盛んに強調していました。私達の話聞いたのか？話の中に兄弟であることがあったのか？ご主人が私達に気を遣い、コーヒーのサービスやとれたての苺ワンパックスのプレゼント、最後はなんと駅まで送っていただき感謝感謝でした。旅の最後に心温まる思い出になりました。「やはり私達は老人クラブの旅行、珍道中で心配されたのかな？」全員でなんとなく納得させられた気分でした。近江八幡を後にして、私達夫婦は京都で別れ、清水寺を参拝の後、関空から沖縄に帰りました。その晩と翌日のニュースで、北陸の豪雪でJR北陸線、国道8号線が2日以上立ち往生し雪の中に閉じ込められたこと、2人が死亡したことなどを知りました。自分たちは非常に運よく大寒波から逃れたことを痛感し、福井駅の駅員に感謝するとともに、亡くなられた方のご冥福を祈りました。



盆梅展にて、右より長兄、筆者、次兄



福井の温泉宿の庭は雪に埋もれていた。右から次兄夫婦、長兄夫婦、筆者夫婦

感 染 症 情 報

沖縄県感染症発生動向調査報告状況

(定点把握対象疾患)

疾 病	定点区分	9 週	10 週	11 週	12 週	
		3/4	3/11	3/18	3/25 (定点あたり)	
		報告数	報告数	報告数	報告数	
インフルエンザ	インフルエンザ	1445	1121	865	642	(11.26)
RSウイルス感染症	小児科	23	56	47	43	(1.26)
咽頭結膜熱	小児科	8	7	12	4	(0.12)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	小児科	54	77	103	69	(2.03)
感染性胃腸炎	小児科	103	143	115	103	(3.03)
水痘	小児科	16	43	28	34	(1.00)
手足口病	小児科	30	25	17	7	(0.21)
伝染性紅斑	小児科	0	4	3	4	(0.12)
突発性発疹	小児科	7	17	8	19	(0.56)
ヘルパンギーナ	小児科	1	1	1	0	(0.00)
流行性耳下腺炎	小児科	2	4	7	3	(0.09)
急性出血性結膜炎	眼科	0	1	1	0	(0.00)
流行性角結膜炎	眼科	13	15	16	7	(0.70)
細菌性髄膜炎	基幹	0	1	0	1	(0.14)
無菌性髄膜炎	基幹	0	1	0	1	(0.14)
マイコプラズマ肺炎	基幹	1	0	0	1	(0.14)
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	基幹	1	0	0	1	(0.14)
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	基幹	1	0	0	0	(0.00)

※1. 定点あたり・・・対象となる五類感染症(インフルエンザなど18の感染症)について、沖縄県で定点として選定された医療機関からの報告数を定点数で割った値のことで、言いかえると定点1医療機関当たりの平均報告数のことです。(インフルエンザ定点58、小児科定点34、眼科定点10、基幹定点7点)

※2. 最新の情報は直接沖縄県感染症情報センターホームページへアクセスしてください。
麻疹の情報も随時更新しております。
<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html>

お 知 ら せ

文書映像データ管理システムについて (ご案内)

さて、沖縄県医師会では、会員へ各種通知、事業案内、講演会映像等の配信を行う「文書映像データ管理システム」事業を平成23年4月から開始しております。

また、各種通知等につきましては、希望する会員へ郵送等に併せてメール配信を行っております。

なお、「文書映像データ管理システム」(下記URL参照)をご利用いただくにはアカウントとパスワードが必要となっており、また、メール配信を希望する場合は、当システムからお申し込みいただくことにしております。

アカウント・パスワードのご照会並びにご不明な点につきましては、沖縄県医師会事務局(TEL098-888-0087 担当:徳村・国吉)までお電話いただくか、氏名、医療機関名を明記の上omajimusyo@okinawa.med.or.jpまでお問い合わせ下さいませようお願い申し上げます。

○「文書映像データ管理システム」

URL: <http://www.documents.okinawa.med.or.jp/>

※当システムは、沖縄県医師会ホームページからもアクセスいただけます。